

## 姉川上流漁場の水温モニタリング調査

吉岡 剛

### 1. 目的

県内の河川漁場では、釣りの漁業権魚種として、アマゴ・イワナ・ニジマス・アユを設定している事例が多い。

近年、夏期に猛暑日が続き、河川が渇水になる状況が見られ、河川水温が以前より上昇している可能性が考えられる。

効果の高い種苗放流を行うには、魚種ごとの適水温を考慮する必要がある。そこで、姉川上流漁協の漁場について、夏期の水温モニタリング調査を実施した。

### 2. 方法

令和4年5月18日に、姉川上流漁協漁場の上流・中流・下流の3地点にデータロガー(ONSET社製HOB0 Pendant Data Logger UA-002-64)を設置し、1時間毎の水温を測定した。

水温測定地点は、上流では温見橋(米原市曲谷)、中流では曲谷集会所(米原市曲谷)、下流では上板並集会所(米原市上板並)付近とした(図1)。ロガーは、令和4年6月23日、8月12日、9月16日、11月17日に回収・交換し、回収したロガーから水温データの読み込みを行った後、日間最高水温を抽出した(図2、図3、図4)。

### 3. 結果

調査期間を通じての最高水温は、温見(21.6℃)曲谷(24.4℃)上板並(25.9℃)であった。温見は高水温期に20℃前後であり、イワナの放流に適していると考えられた。曲谷は、高水温期に25℃以下で推移しており、アマゴ・ニジマスの放流に適していると考えられた。上板並では、25℃を超える日が数日確認されており、アユの放流に適していると考えられた。なお、本結果を用いて、姉川上流漁協に放流に関する助言を行った。



図1 データロガー設置場所

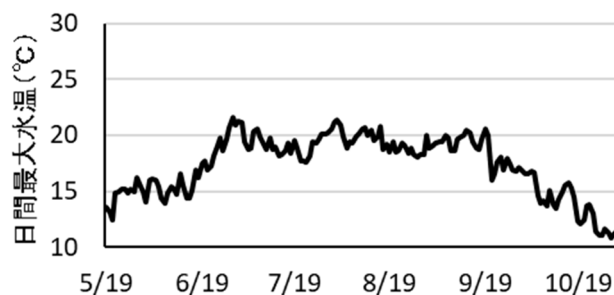


図2 温見の日間最高水温推移

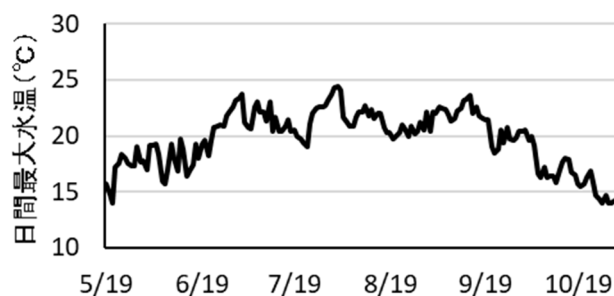


図3 曲谷の日間最高水温推移

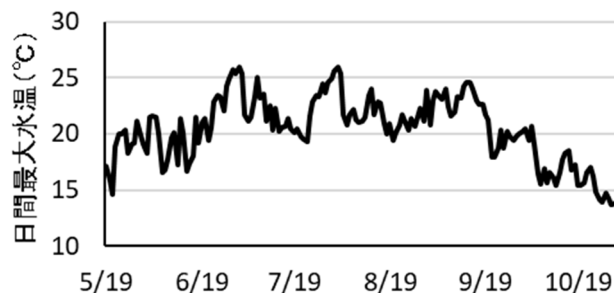


図4 上板並の日間最高水温推移